

社会福祉法人愛篤福祉会は、利用者さんが安心して暮らせる施設づくりを目指します

▼石破内閣が誕生して一週間、ただ総理大臣になりたくて立候補したのか、虎視眈々と総理の椅子を狙っていたのか、等等など更に手のひら返し、逃げ腰内閣などと揶揄され批判の矛先が新内閣に向けられ早くも批判、憶測が続出。

このような人間模様は永田町に限らず私たちの身近な問題として捉えることが出来る。批判ばかりの人、すぐ結果を求める人、組織の目的の為に気持を一つに出来ない、このような自己主張が大半を占めると纏まるまでに長い時間と労力を必要とする。

「総論賛成・各論反対」個別の議論では私利私欲に走る意見が噴出し結果纏まらないこともしばしばである。

早期に目的を達成しようとするなら、理解と協力が肝要だ。

このことがなければ、時間だけを浪費し、完遂は難しい。

常に議論の陰に、目的の達成を待ちわびている人がいることを忘れてはいけない。



障がい者の終の棲家

障がい者の終の棲家は、大きく入所施設とグループホームの二つに分けることが出来ます。NHKの調査によると、現時点で入所を希望している待機者数は約二万二千名余だそうです。

全国には二千五百二十四か所の入所施設と町の中には幾多のグループホームがありますが、入所を希望しても未だにこれだけの方の要望に応えられていない現実があるのだと痛感しました。

団塊の世代と呼ばれた保護者も、七五歳以上となり、その子供団塊ジュニア世代の障がい者にとって、自宅で親御さんの支援を受けながら生活できる時期はとうに過ぎていきます。法人に寄せられる施設への入所という保護者の切実な要望にはこのような背景もあるのです。

このような状況の中、厚生労働省も待機者数の実態調査を十月に行うことを決めました。

結果は来年一月に報告されそうですが、調査結果が、施設の建設を計画している事業者にとって追い風となる施策に反映されることに繋がればと思います。



ボランティアさん募集

工房阿列布では、利用者さんと一緒に作業をして頂けるボランティアさんを募っています。

作業内容など詳しくは担当者までお気軽にお問い合わせください。

お問合せ 工房阿列布 0246-36-3944
担当者 坂井

頑張れ実習生!

今年度に入り、現在までに五名の実習生の受け入れを予定していました。年内にまだ数名の受け入れを予定しています。就労・生活介護、希望はそれぞれですが、この実習が本人たちの糧になり、また利用者の皆さんの刺激にもなっています。卒業後、阿列布を進路先に選んで貰えるかは分かりませんが、学校ではない事業所の空気を新鮮にうけとめてもらえれば幸いです。



編集後記

朝晩もめっきり涼しくなり、街なかでもだいぶ秋めいてまいりました。

今年度下半期を迎えることとなり、利用者の皆さんの個別支援計画の見直しに基づいた新たな支援の取り組みを行ってまいります。ご家庭での取り組みのご協力もよろしくお願いたします。

<寄付・物品寄贈の皆様>

金成京子様・山本輝人様・只野康子様・渡辺和子様・遠藤哲郎様・佐々木享子様・武藤康子様・(順不同)